

長命寺 向こうの池の大蛇

(茨城県古河市下大野 長命寺所蔵)



長命寺 大蛇の歯

(1)「向こうの池の大蛇」(「そうわ伝説」)より

昔の話です。

下大野村、現在の総和町下大野の人たちの楽しみ
のひとつに、成田まいりがありました。

成田山新勝寺のほとけ様を慕ってのおまいりです。

その頃はまだ交通機関が、現在のように発達して
いなかったため、遠い道のりを歩いたり、舟に乗っ
たりの旅でした。

途中、めずらしいものを見たり、土地、土地の名
物を食べたりの楽しい旅でした。

成田山新勝寺に行くのには、途中、印旛沼という大
きな沼を舟で渡ります。

その舟の上で、かけごとをしたり、のんびりとあた
りの景色に見とれたりするのも楽しみのひとつでし
た。

ところが、鏡のように静かな水面を、すべるよう
に走っていた舟が、突然の大波に、木の葉のように
揺れ動き、沈みそうになることがしばしばありまし
た。

印旛沼に住んでいる大蛇が、大あばれするからで
す。



長命寺 大蛇の歯

こんなとき、下大野村の人々は、舟べりにしがみ
つき

「長命寺檀家、長命寺檀家」
と、必死の面もちでとなえました。

下大野の住民であることを、大蛇に知らせるため
です。

そうすると、それを聞いた大蛇は、どこかに姿を
かくし、大荒れに荒れていた沼は、もとの静けさにも
どったということです。